

輸出事業計画

※申請者名：にし阿波ビーフ輸出コンソーシアム

品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

【現状】

にし阿波ビーフ輸出コンソーシアムは、(株)にし阿波ビーフを中心に生産農家、食肉処理施設、輸出事業者、行政の連携をより強固にするために令和6年9月24日に設立。輸出品目は牛肉である。構成員の(株)にし阿波ビーフは、平成28年3月末にハラール専用輸出対応産地食肉センター整備を完了した後、ハラール圏への牛肉輸出に関する手続きを進めるとともに、販路を広げ着実に輸出量を増やしてきた。主な輸出先国はマレーシア、インドネシア等である。

本コンソーシアムの活動によって、現地のインポーターと繋がり、輸出量増加が見込める中東地域を中心に販売促進活動に重点的に取り組むことにより、ハラール圏における更なる牛肉市場拡大を目指している。

【課題】

アジアにおいては、現地での牛肉国際競争激化、日本国内の他の食肉処理施設におけるハラール圏への流通ルートの整備等により、今後更に競争が激しくなることが予想される。そこでさらなる消費拡大と認知度向上が必要であると認識。

新たな市場である中東地域（UAE、サウジアラビア）では、（株）にし阿波ビーフの牛肉輸出取扱施設認定の許認可を受けてから間もないため、当コンソーシアムの取り組みによる日本産和牛の認知度向上が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

■ 各国共通

【販売】

畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業を活用し、インドネシアでの認知度を向上させるため、現地インポーターの招聘、令和5年に輸出施設認定を受けた中東圏（UAE）について、日本産和牛のおいしさを知ってもらうため、現地でのシェフやインポーターを対象とした現地訪問商談の開催や、現地インポーターの（株）谷藤ファームの生産現場や（株）にし阿波ビーフの食肉処理施設への招聘を行い、販路拡大を目指していく。

■ マレーシア

【販売】

商品を販売する現地の高級デパートや、高級量販店において、高・中所得者層向けに、（株）にし阿波ビーフを中心に販売活動を行う。

■ インドネシア

【販売】

現地の高級デパートや、高級量販店において、高・中所得者層向けに、（株）にし阿波ビーフを中心に販売活動を行う。また、現地インポーターを招聘し、生産現場や衛生的な食肉処理施設を視察してもらい、販路拡大を目指していく。

■ シンガポール

【販売】

現地の高級デパートや、高級量販店において、高・中所得者層向けに、（株）にし阿波ビーフを中心に販売活動を行う。

■ UAE、サウジアラビア共通

【販売】

現地の高級デパートや、高級量販店等において、高・中所得者層向けに販売活動を行う。具体的には、動画や英語のリーフレット等の販売促進資材を作成し、PRを行う。他には現地に渡航し、セミナー開催、訪問商談を行う。また、現地インポーターを招聘し、（株）にし阿波ビーフ、（株）谷藤ファームを視察してもらい、打合せや商談を行う。

輸出事業計画**※申請者名：にし阿波ビーフ輸出コンソーシアム****品目：牛肉****3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制****PLAN**

にし阿波ビーフ輸出コンソーシアムが関係機関と連携しながら、販路開拓を中心とした計画を作成する。

DO

にし阿波ビーフ輸出コンソーシアムが現地での認知度向上につながる取り組みを行い、現地高級レストラン、ホテル、スーパー、量販店に輸出する。

また、計画に基づいた消費拡大・新たな販路開拓に向けた取り組みを行う。

ACTION

協議結果を元に、問題点の改善・計画の見直しをにし阿波ビーフ輸出コンソーシアムの構成員全体で実行する。

CHECK

にし阿波ビーフ輸出コンソーシアムとしての計画の達成度の確認、取り組みの有効性の評価を行い、構成員全体で協議する。

4. 輸出目標額

輸出品目 牛肉		現状（令和 5 年度） 令和5年4月～令和6年3月	目標年（令和 9 年度） 令和9年4月～令和10年3月
徳島県 東みよし町	輸出額(千円)	1,073,072	1,222,486
	輸出量 (kg)	336,722	487,826
	輸出先国	マレーシア インドネシア シンガポール UAE 等	マレーシア インドネシア シンガポール UAE サウジアラビア 等
	生産量/取扱量 (kg)	420,903	605,783

令和 5 年度実績は、（株）にし阿波ビーフの輸出実績である。